

志小安全・防災だより



H30.7.13 NO.17
安全・防災担当：早坂 潤

西日本の豪雨から3年前の大崎市の9.11豪雨が思い出されました！

7月11日現在で157人の命が失われている西日本の豪雨の様子をテレビで見ていると、自然災害への恐怖心が襲ってきます。天気がよい状態でも突然目の前で発生する土石流の映像は、信じがたいものすごさを感じさせます。2年前は、東日本でも秋田県や北海道で水害による大惨事が発生しています。3年前には、私の出身地である大崎市でも9.11豪雨と呼ばれるほどの大雨で、大崎市の一部が水没しました。このときは、これまで予測していなかった渋井川の堤防の決壊と、周りの水路が増水し水が溢れ出し、周りの民家に水が流れ込んでいきました。岩出山周辺では、水害だけではなく多くの土砂災害が発生し、それによって沢の水が池月の民家や陸羽東線に流れ込み、線路が川のようにになりました。やはり、このときも、周りの人々は、「まさかここでこのようなことが起きるとは思わなかった。」と話していました。私たちが暮らしている志津川では、土砂災害警戒区域に指定されている場所が20箇所くらいあります。これから本格的な台風の時期を迎えますが、高潮、川の水の増水、土砂崩れ等の災害を頭に置きながら生活し、いざというときにどのような行動をとれば自分の命を守れるのかの判断が大切となってきます。



岩出山池月の踏切は川のように！



岩出山小の裏はこのような状態！

過去にどのような自然災害が発生していたのか、自分が今住んでいる場所、土地は大雨等が降ったときに川が氾濫したり、土砂災害等に襲われたりする心配はないのかを考え、日頃からの自然災害に対する備えの大切さ改めて考えさせられたのもこのときでした。

志津川小学校の周りは大丈夫なのでしょう…？

地域の方の話によると、何が起こるか分からない現在なので、あらゆる所に目を向けておかなければなりません。小学校の南側で崖になっているところは、30年ほど前にこの小学校を建設するときに自衛隊の方々が土を盛り上げただけの土地なので大雨で土砂災害につながる可能性もあるとのことでした。土地の様子（変化）を常に観察しておかなければなりません。

確かに、土が流された跡がありました。

